

新潟県における 被災者受け入れ状況と保健所活動

新潟県新発田保健所

(新発田地域振興局健康福祉環境部)

片桐 幹雄

はじめに

- 平成16年7月
平成16年新潟・福島豪雨(7.13水害)
- 平成16年10月23日 17時56分
新潟県中越地震(M6.8、最大震度7)
- 平成19年7月16日 10時13分
新潟県中越沖地震(M6.8、最大6強)

新潟県の対策本部の設置状況

- 東日本大震災（県内最大震度 5弱）
3月11日
14時46分 警戒対策本部
15時10分 災害対策本部
（災害対策基本法に基づかない）
- 長野県北部を震源とする地震（6弱）
3月12日
3時59分 災害対策本部（法に基づく）

被災された方の受入等

- 放射性物質の付着の有無の確認(スクリーニング)の実施(3月14日～)
- 3月14日ころから市町村で受入始まる
知事が被災者受け入れ表明(3月16日)
→ 全30市町村で受入
- 福島県いわき市からの人工透析患者の受入(3月16日～5月29日)
- 福島県南相馬市からの広域転院搬送受入(3月18日～20日)

放射線物質の付着の有無の確認 (スクリーニング検査)(1)

- 3月13日(日)夜から14日(月)早朝にかけて、福島県から新潟県へ来られた方から新潟県におけるスクリーニング検査の実施に関する問い合わせが相次いだため、希望者に対してスクリーニングを実施

放射線物質の付着の有無の確認 (スクリーニング検査)(2)

- 対象

福島第一原子力発電所の避難区域(半径20km圏内)及び屋内待避区域(半径20～30km圏内)にいた方で、放射性物質の付着の有無の確認を希望する方

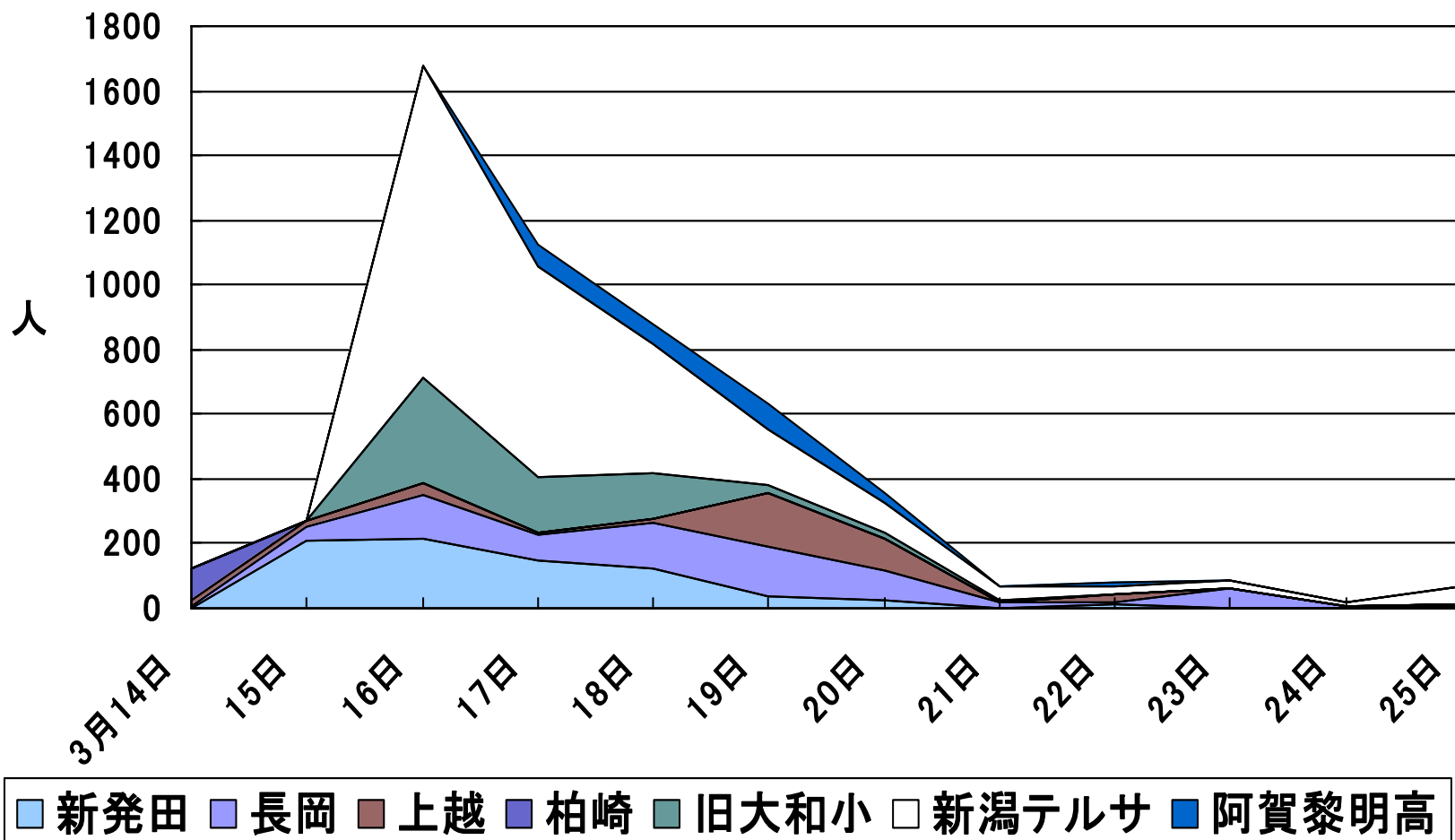
放射線物質の付着の有無の確認 (スクリーニング検査)(3)

- 実施場所・時期等(主なもの)

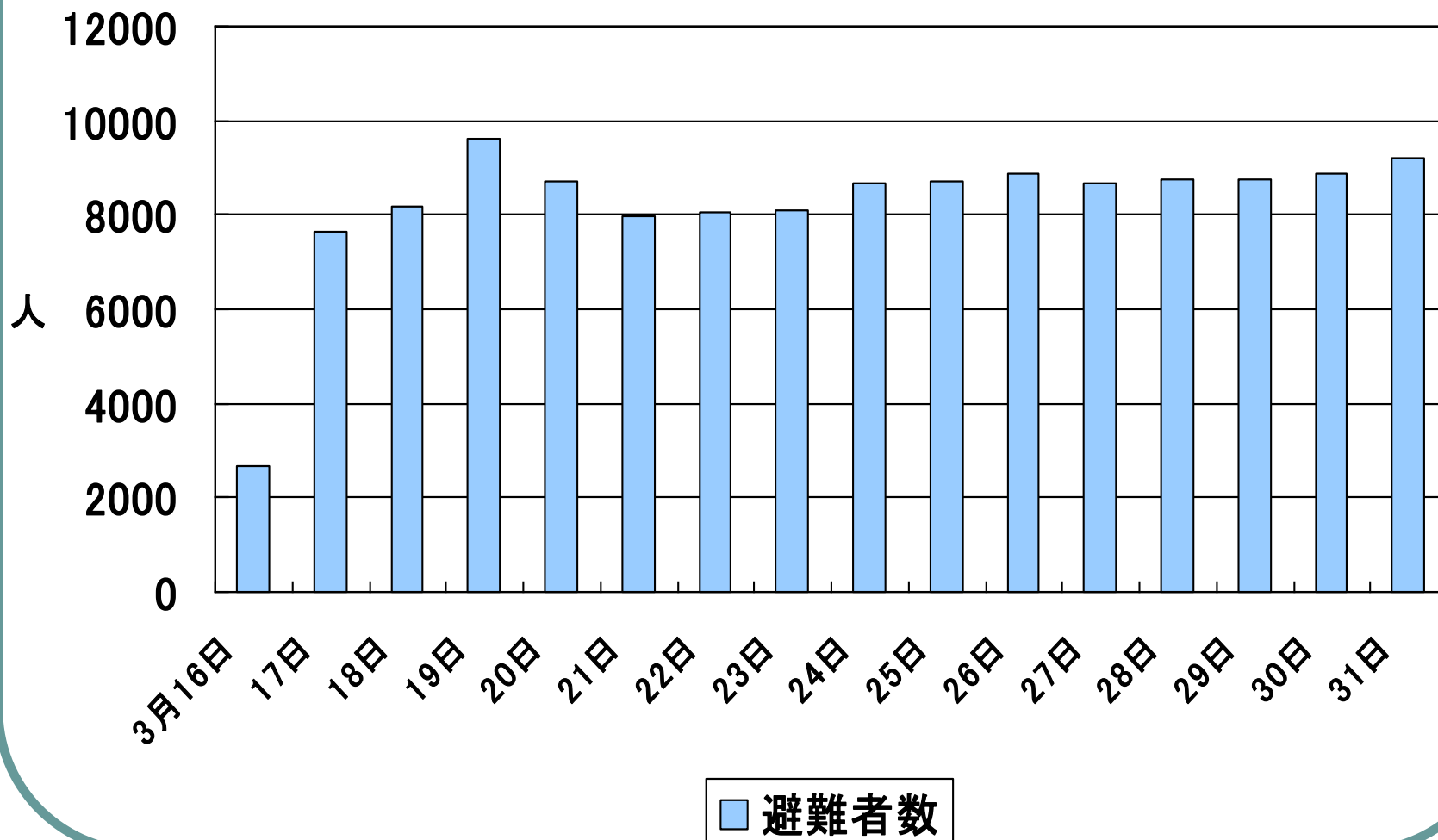
新発田地域振興局	3月14日～	9～17時
長岡地域振興局	3月14日～	9～17時
上越地域振興局	3月14日～	9～17時
新潟テルサ	3月15日～31日	24時間
新潟市総合保健医療センター(新潟市保健所)	4月1日～	9～17時

※3月中は土日、祝日も実施

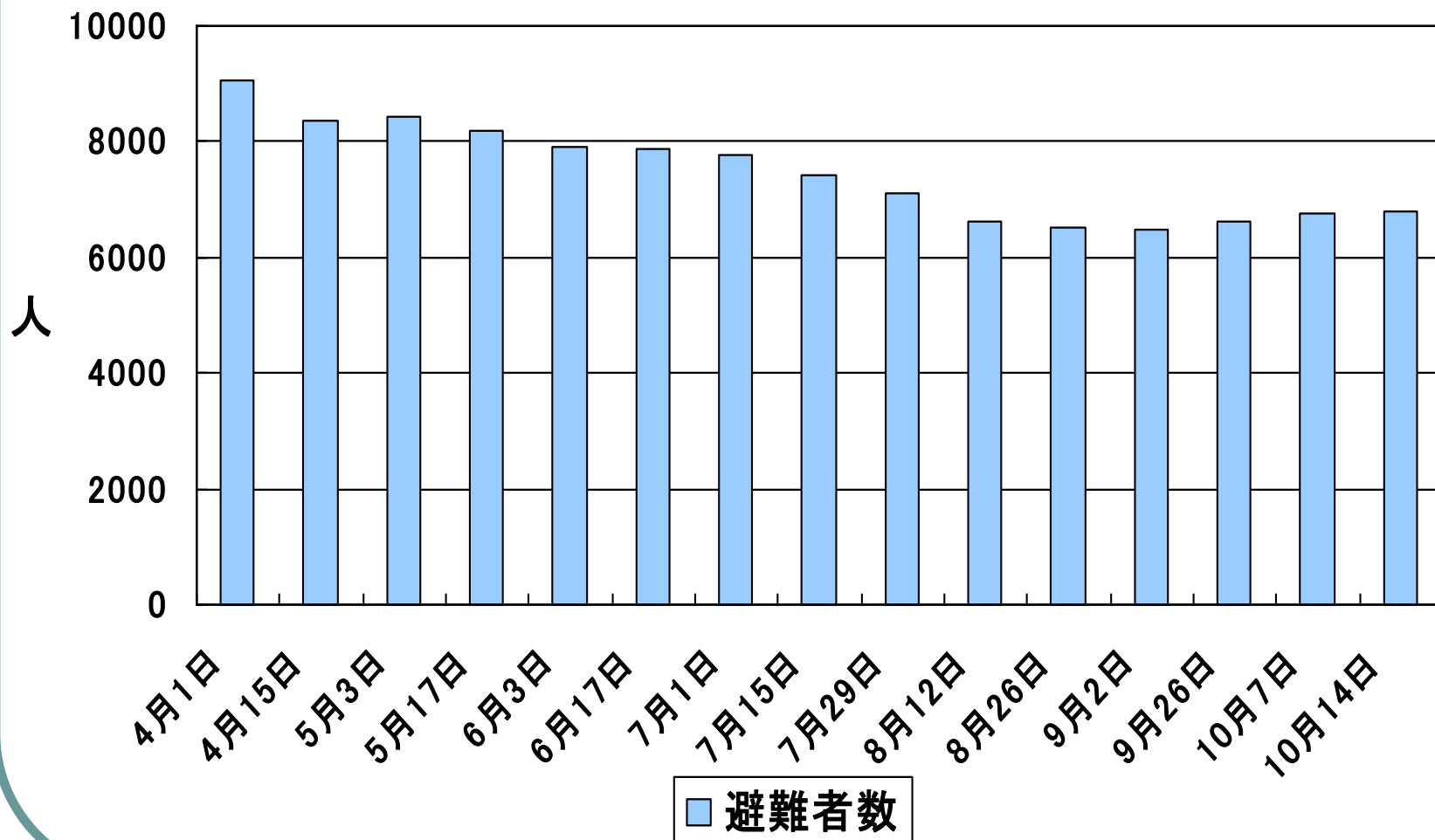
放射線物質の付着の有無の確認 (スクリーニング検査)(4)



新潟県内への避難者数の推移(1)



新潟県内への避難者数の推移(2)



新潟県内への避難者数の推移(3)

- 平成23年10月14日現在 6,798人
(9月2日時点 6,486人)
 - 借上げ仮設住宅 4009人(59.0%)
 - 公営住宅等 1031人(15.2)
 - 親戚・知人宅等 1521人(22.4)
 - ホテル・旅館等 6人(0.1)
 - 病院 81人(1.2)
 - 社会福祉施設等 150人(2.2)

被災者受け入れに際しての新発田保健所の活動 (スクリーニング検査以外)(1)

- 心身の不調者への健康相談、受診支援
- 避難所・福祉避難所運営についての市町への助言、保健師・精神保健福祉相談員の派遣
- 県庁と市町との連絡調整(看護・介護職員等の派遣等について)
- こころのケア勉強会開催
- 健康相談従事者研修会開催

被災者受け入れに際しての新発田保健所の活動 (スクリーニング検査以外)(2)

- 市町との現地活動報告会、ミーティング(南相馬市職員を含む)
 - 二次避難者全戸訪問、健康調査
 - 避難者への健康教育(運動、リラクゼーション)
- 等

生活支援という視点

保健所としての課題

- 受け入れる側としての事前の準備
- 情報の共有（県と県、県組織内、県と市町村）
どうすれば必要な情報が得られるのか？
どうすれば伝えられるのか？
- マンパワーの確保（スクリーニング、避難者支援）
- 行政始め、他機関との連携（地元医師会、大学、理学療法士会、臨床心理士会、老人保健施設協議会など）
- 長期的な生活支援のため体制づくり

おわり

ご清聴ありがとうございました。